

第182話 本町域の私塾・寺子屋⑪ 中山町 歴史散策

青木長伯塾

青木家もまた医業を本業とし、その傍ら塾を開いて子弟の教育にあたった家系として知られています。その遠祖は伊勢桑名の城主松平家の臣、大根田七右工門の二男で、青木由政定章が寛文年中に当地に来て医業を行ったと伝えられています。2代清康は松田（長益）家から入って家を継いでいます。塾生らが建立した青木家に残っている酬恩碑は7代の長伯です。師は天保5年（1834年）に生をうけ、明治23年に56歳で亡くなりました。

別名通称文栄先生として、柳町ばかりでなく町内外から尊敬され、薫陶を受けた1人に、岡村から通った当時としては珍しい女子生徒の柏倉ハツがいて、異彩を放っていました。碑の正面中央に青木先生碑、脇に「ひとり行く 帰らむ旅や 草の露」の句があります。

なお、二男の青木松栄先生は30年の長きにわたり長崎小



青木先生之碑  
(自宅東側庭先に建立)

※引用 中山町史 中巻  
第10章第2節 教育

【お詫びと訂正】

先月号の歴史散策で表記に一部誤りがありました。上段29行目に「朝倉勘兵衛」とありますが、正しくは「浅倉勘兵衛」となります。訂正してお詫び申し上げます。

学校の校長を勤め、郷土の子弟教育に父に劣らぬ大きな足跡を残し、弟の文明は寒河江の山本家を継ぎ、本町文新田の画家服部武陵の長男旭峰に師事、書画に名を残しています。なお、家業の医師は末弟の永佐久が分家して継ぎました。

私たち地域おこし協力隊です！ No.50



協力隊の稲垣です。他の協力隊より山形の歴史や文化に触れる機会が多かった私ですが、コロナ禍の影響で山形県民3年目にして初めて花笠祭りを見ました。山形にはまだまだ「はじめて」がたくさん残っているようです。金比羅樽流しや岩谷十八夜観音の祭礼など町内の風習も再開しつつあり、話に聞いていた慣習などを初めて見学する機会が増えています。中にはまだ調査がされていなかったり、記録が作られていないものも多く、協力隊の任期を終えてからも中山町をフィールドの一つに活動していけるように準備を進めています。

また、郷土研究会での報告や「ゆ・ら・ら」での調査展示を行うなどアウトプットの活動も増えています。9月12日まで行った昨年度の調査報告展示では九左衛門家で行われていた十七日講という宗教慣習や敷瓦などについて展示を行いました。しかし、今回紹介した物は私の目についた物に過ぎず、地域の記録として残すためにはさらなる大系的な調査を行ってまとめることで伝えていく体制を整える必要があります。地域の宝をどう捉えていくか。一辺倒の見方はできませんが、地域を残したいという方々に今後も協力していきたいと考えています。



2年目の調査活動の成果についてご紹介しました

●協力隊への問い合わせ先●

伊藤 ☎662-2114 (産業振興課) / 稲垣 ☎662-2235 (教育課) / 高橋 ☎662-2223 (総務広報課)